

科目名 統合援助技術 時間割表記名 統合援助技術		配当時期 3年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	講義担当者 高木佳寿美 吉竹あゆ
事前学習内容 複数の受け持ち患者の病態、検査、治療、看護についてレポートにまとめる。			
授業目標 1. 複数の受持ち患者の看護の優先順位の判断ができる。 2. 複数の受持ち患者への看護実践ができる。			
教育目標との関連 1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2. 人々が生活するうえでの健康の意味を、環境との相互作用の観点から理解する。 3. 対象の生活をよりよくするために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた看護を実践できる能力を養う。 5. 保健医療福祉制度とそれに関わる職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力を養う。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	1. 複数受持ち対象の看護過程の展開① 1)情報の整理・解釈	講義 課題学習	テキスト①
2	2)看護問題の抽出	課題学習	テキスト①
3	3)計画の立案		
4	2. 複数受持ちにおける看護の優先順位の決定	グループワーク	テキスト①
5	3. 複数の受け持ち患者の看護実践①	シミュレーション	テキスト①
6			
7	4. リフレクション	講義 グループワーク	テキスト①
8	5. 複数受持ち対象の看護過程の展開② 1)情報の整理	課題学習 個人ワーク	テキスト①
9	2)看護問題の抽出 3)計画の立案		
10	6. 看護の優先順位の決定のための根拠		
	7. 複数受持ち対象の看護の優先順位の決定		
	8. 複数の受持ち患者の看護実践		
11	9. 技術試験オリエンテーション	OSCE デブリーフィング	
12	10. OSCE: 複数の受持ち患者の看護実践②(12～15回)		
13	1)ブリーフィング		
14	2)シミュレーション		
15	3)デブリーフィング・自己の課題の明確化		

受講上の注意 ○課題に取り組み複数患者対応のシミュレーションを実施し、デブリーフィングで学びを深める。 ○複数の受持ちの患者の看護実践では、事例の事前学習および個人ワークを用いてグループワークを進める。評価は、課題内容と OSCE (ルーブリック) により行う。	評価方法 レポート OSCE
使用するテキスト ①複数受持ちの 2 事例の看護に必要なテキスト 参考文献	